



平成23年10月26日
日本原子力発電株式会社

東海第二発電所 原子炉圧力容器下部制御棒駆動機構フランジ

からの漏水について

当社、東海第二発電所（沸騰水型軽水炉、定格電気出力110万キロワット）は、第25回定期検査中のところ、10月26日10時20分「格納容器機器ドレンサンプ高」警報が発報し、使用済燃料プールスキマーサージタンクの水位低下を確認しました。このため、作業状況を確認したところ、制御棒駆動機構の復旧のために制御棒駆動機構ハウジングの閉止板の取り外し作業を実施しており、閉止板の1つでパッキンが緩んで冷却水が漏れていることを確認しました。漏水は現在も続いています。

なお、使用済燃料プールへは水張り操作を実施しており、スキマーサージタンクの水位は回復しております。

また、使用済燃料プール冷却系の運転は継続しており、燃料の冷却には問題がないことを確認しております。

当該作業に従事した者の身体表面汚染及び内部被ばくのないことを確認しました。

*スキマーサージタンク：使用済燃料プール水を浄化するため系統のタンク

添付資料：原子炉概略図

以 上

原子炉概略図

